### ○主な研究成果

### ◆種雄牛開発の効率化

【目的】バイオテクノロジーを用いて、一卵性双子を生産し、片方の 枝肉成績からもう片方の種雄候補牛の能力を評価する。

【結果】双子の片方の枝肉は、肉質が A 5 ランクと良好な成績が得られた。

【今後】もう片方を種雄牛候補として後代牛を生産・肥育し、双子検 定の精度を確認。







#### 「優蒼」の枝肉 (BMS No.9、枝重523.5kg)

# ◆よりおいしさとこだわりをもった地鶏生産

【目的】遺伝子解析技術を活用したおいしい青森シャモロックの選抜 【結果】アラキドン酸比率の高いおいしい青森シャモロック種鶏を選 抜した。

【今後】始原生殖細胞を用いた遺伝資源保存方法の検討。



青森シャモロックひな

## ◆乳牛の長命連産技術

【目的】初産牛の死亡・廃用率が高くなる要因とその影響を明らかに する。

【結果】初産時、無理なけん引介助を行うと産後の肥立ちが悪くなり 餌が十分に食べられず、その後の受胎率も低下した。

【今後】経産牛の廃用率を低減するため、潜在的な疾病対策及び暑 熱ストレス低減技術を開発。



乳牛の飼養環境調査

#### ◎その他の試験・研究・調査

- ◆黒毛和種におけるゲノム解析
- ◆短期連続採卵技術による優良雌牛増産技術の確立

### ◆黒毛和種の経済的で簡易な肥育管理

【目的】飼料用米給与・期間短縮肥育で肉質の良い飼育方法を開発する。

【結果】肉質が良好となるビタミンA剤定期投与プログラムを開発 した。

【今後】 I C Tを活用したストレスフリーな肥育技術を検討。





飼料用米を食べる試験牛

ビタミンA剤投与プログラムで 生産された高品質牛肉

### ◆自給飼料の増産対策

【目的】乳牛に不足するタンパク質を補うために、新たな高タンパク質 飼料作物の栽培技術を確立する。

【結果】飼料用大豆は大豆粕を購入するよりも安価に生産できた。

【今後】牛の乾物摂取量を増やすための牧草の肥培管理技術の確立 と自動運転トラクタを利用した省力的粗飼料生産。



自動運転トラクタの実証試験

# ◆全国評価の向上のための優良種雄牛の作出

【目的】優良な種雄牛の作出と利用を通じて、県産和牛の市場評価を 高める。

【結果】種雄牛「春待白清」、「広清」、「忠光安」を作出した。「春待白清」 産子が高評価を得ているほか、「広清」及び「忠光安」の凍結 精液を供給している。

【今後】全国レベルの品評会での上位入賞を通じて、県産和牛の品質 の高さをPRする。





県基幹種雄牛「広清」

「広清」産子の枝肉

- ◆日本短角種の種雄牛の生産
- ◆牧草・飼料作物の優良品種の選定